

[1日目] 11月7日(土)

11:00発の飛行機でタイのスワンナプーム国際空港へ出発した。集合、チェックイン、乗船まで、大変スムーズに行動できた。参加学生の大部分が初めてのタイへの渡航だったため、皆期待と不安を抱えつつ、バンコクへと降り立った。空港からはバスで移動し、SWUTEL HOTEL (シーナカリンウィロート大学のバンコクキャンパス内のホテル) へと向かった。日本とは異なる蒸し暑い気候や、バスから見える景色に皆一同興奮していた。ホテルに到着後、それぞれの部屋に荷物を置き、少し休憩をとったあと、交換留学生とアセアン・センターの斉藤先生と共に夕食に向かった。夕食をとった食堂では、タイ独特の料理に挑戦した。トムヤムクン、ソムタムなど、刺激の強い料理が多かったが、皆辛さに驚きつつ美味しい食事に舌鼓を打った。ホテルに戻ったあと、それぞれのチームで模擬国連の準備に取り掛かった。(文責・阿部)

[2日目] 11月8日(日)

タイ二日目の朝は、ホテルからバスで2時間ほど行ったところにあるタリンチャン水上マーケットへ足を運んだ。目的地へ到着後、ボート乗り場の周辺の屋台で物珍しいタイ料理を買い、皆でシェアしながらタイの初めての味に興奮し合った。そして食事を持ちこみつつ、皆同じひとつのボートに乗り込み、1時間ほど水上マーケットを周遊することとなった。ボートの中からはバンコクの住居や寺院を見ることができ、時には生き物を見かけることもあった。ほとんどの家には船着き場があったり、川のすぐそばに食堂、ポストがあったりと、周辺の人たちにとって川が重要な交通手段として使われていることが窺われた。ボートの上でものを売っている様子が見られなかったのは残念だった。

次に、オートコー市場へ行き、市場の中の屋台で食事をとった。タイ語やタイ通貨やタイ料理の辛さに戸惑う一面もあった。また、食事が40パーツから50パーツであったことにタイの物価の安さを実感した。

食事をとったあとは、3つのグループにわかれてオートコー市場やその周辺を見学した。長期留学生の3の方がそれぞれのグループに付いて案内してくれたためとても心強かった。私はチャトゥチャック市場へ行った。チャトゥチャック市場は一日中ショッピングを楽しめるほどの大規模なマーケットで、洋服から小物、飾り物、食器…など様々なものが売っていた。

それぞれ市場を視察した後は、自由時間を頂いた。私たちは再び、エメラルド寺院に行くグループとタイ古式マッサージ体験へ行くグループに分かれて行動した。この時も長期留学生の方が案内してくださった。バンコクの市内を走る電車に乗り、ホテルの周辺のマッサージ店に行った。2時間ほどマッサージを満喫し、ホテルに戻って模擬国連の準備を進めた。(文責・新井)



[3日目] 11月9日(月)

三日目はシーナカリンウィロート大学オンカラックキャンパスへ向かった。オーストラリアやラオスチームの発表を聞いた後、自分達のプレゼン発表をした。質疑応答では相手からの鋭い質問や坪田先生からのアドバイスに、まだまだ手直しが必要だと実感した。昼は学食のような場所でご飯を食べた。最初はお互いに手探りの状態で会話がぎこちなかったが、時間が経つにつれて緊張が解けていった。シーナカリンの生徒は日本の文化などに興味を示し、尋ねてきた。私たちはタイ語を教わった。昼食の時間を通して私たちの距離は一気に縮まり、タイ

という遠い存在だった人と今こうして交流していることに不思議な感覚を持つと共に、とても刺激を受けた。午後はバスでキャンパス内を視察した。現地の学生が率先して建物の紹介をしてくれた。道は大型バスが2台は余裕で通れる広さで、また、寮やサッカー場、病院など生活に必要なものは一通りそろっており、その広さに驚いた。とても恵まれた環境で勉強していることを肌で感じた。時々バスから降りて視察したが、その時に、道にたまっていたシーナカリンの生徒が我々に日本語で話しかけてくれたのを今でも覚えている。タイに来て日本への関心の高さを感じるが多かった。その後、ホテルへ移動し、バスガイドさんが勧めてくれた、ホテル近くのラーメン屋さんで夕食をとった。メニューは全てタイ語で書かれていたが、交換留学生の方が定員との橋渡しをして下さったおかげで、好きな料理を注文できた。(文責・稲葉)



[4日目] 11月10日(火)

私たちはカセサート大学へ訪問した。バンコクから離れたところにキャンパスがあるため、朝早く出発した。2時間ほどバスに揺られ、カセサート大学に到着。とても大きいキャンパスで、タイにある最も大きい大学のうちの一つであるようだ。敷地内はとても広く、研究棟や花卉栽培敷地、家畜敷地があり、まるでサファリパークのようであった。先生のお話や講義を聞いた後、大学の研究設備を見学した。遺伝子研究や、家一軒買えるほど高額な最先端の機械など見ることができた。人の手がいつかいらなくなってしまうのではないかと思えるくらい素晴らしいものばかりだった。次に花卉栽培を見学した。宙に吊るされている植物があったり、綺麗な花が植えられていたりした。花は安く売るようだ。そして家畜敷地では遺伝子の掛け合わせによって様々な種類が生まれていた。掛け合わされた種類は少しずつ大きくなっており、あごの下のたるみが多くなっていっているのが印象的であった。

大きい敷地なのでバン移動なのが驚いた。学生もバイクで移動していて日本では見られない光景だと感じた。また、キャンパスツアー終盤にあまりにも暑かったのでちょっとしたドリンクが飲めるカフェのようなところで休憩したのだが、これも日本にはなさそうだと感じた。

そしてキャンパスツアー終了後、カセサート大学の学生たちと模擬国連の打ち合わせを行い、その後は学生たちと夕食をともにとった。その際日本の話になった時は日本のアニメが好きなひとがいたり、日本に交換留学したことがある人がいたり、タイの人は日本が好き人が多いことを実感した。そしてカセサート大学の学生主催の歓迎会を開いてもらい、お互いに自己紹介など行った。とても素晴らしく、楽しい時間を過ごすことができた。その夜、私たちはカセサート大学のゲストハウスに宿泊した。寮のイメージとは違い、綺麗なのに驚いた。私たちは模擬国連の準備を進めたのち、就寝した。(文責・中坪)



[5日目] 11月11日(水)

朝食をカセサート大学内の食堂で食べ、一日が始まった。朝から食堂で食べる学生が多く、にぎわっていた。食堂内には、5種類程度の小売店が設置されており、皆興味のあるお店を選んで朝食を買い、食事をとった。



カセサート大学を出発後、タニヤマサイアム社に訪れ、企業説明を受け、マンゴー・アスパラガス・オクラの工場を見学した。タニヤマサイアム社は、オクラ、マンゴー、アスパラガスなどの農産品を、日本を中心とする海外に輸出している企業である。また、ラオスにて、実験的におこなわれている企業による農場の経営についてお話を伺った。

マンゴーの工場では、ミバエの他国への侵入を防ぐために、厳しい監視の下、マンゴーに熱処理を施していた。オクラの工場では、虫が入り込んだオクラを製品として出荷しないために、目視でそのようなオクラを除く工程があった。その工程内で、虫が入り込んだオクラを見つけた場合、報奨金が出る仕組みがあり、職員の意欲を工場と、商品の品質維持を両立する工夫がなされていた。

見学したそれぞれの工場では、しっかりとした衛生管理体制が敷かれていた。また、消費者や小売業者の、サイズや重さに関する細かい要望に応えるべく、包装時に個体ごとの重さ・長さ・糖度等の計測が丁寧に行われていることに驚いた。

工場を見学した後、アスパラガスの集荷場と農場を見学した。集荷の時点で、等級を付けて農家から一定料金を支払うシステムは、品質と農家の意欲向上にとって画期的な工夫だと感じたが、企業を運営するには勇気のいる手段だとも感じた。農場では、アスパラガスの特性を生かした栽培の工夫がなされており、たいへん興味深かった。また、「栽培の工夫は農家まかせ」という一見リスクの高い方法が、農家・企業間の信頼関係の礎になっていると思うと、このような企業側の姿勢は、企業の農業進出の際に不可欠な工夫であると考えた。



タニヤマサイアム社で様々なことを学んだ後、SWUTEL HOTELへと戻り、各チーム模擬国連の準備に取り組んだ。(文責・阿部)

[6日目] 11月12日(木)



この日はキングモット工科大学を訪問した。模擬国連前日ということもあり、みんな準備で疲れていたが、あたたかく迎え入れられ、元気を取り戻した一日だった。

これまでタイに五日間滞在し、タイ料理の辛さにも慣れてきた頃合いであったが、この日は料理教室を開いていただき、自分たちでタイ料理を作る側にまわることができた。また、タイ文化の研修として、花飾りを作製したり、希望者はム

エタイも教えていただいた。基本のジャブ・フック・ストレートから、キック・エルボー・ニーなどの技まで教えていただいた。久々の運動に、心も体もリフレッシュすることができた。

一日通して、タイについて、改めて認識できるよい機会となった。学生だけでなく、講師の方々ともお話しする機会が多く、タイの文化に触れながら、タイの人々のバイタリティーを直に感じることもできた。(文責・岩田)



[7日目] 11月13日(金)

FAOアジア太平洋地域代表事務所にて模擬国連を行った。模擬国連とはFAOに加盟している6ヶ国がメインテーマ「EQUITABLE, PRODUCTIVE AND SUSTAINABLE NATURAL RESOURCE MANAGEMENT IN THE ASIA AND PACIFIC」に基づき、通常の国連と同じようにプレゼンテーション、質疑応答、バンコク宣言の発令を行うものである。明治大学、シーナカリンウィロート大学(タイ)、カセサート大学(タイ)の3大学が参加。各大学2つの班に分かれて担当する国の政府代表となって発表した。議長(CHAIRMAN)、連絡係(LIAISON)、報告者(RAPPORTEUR)、質問者(QUESTIONER)すべてが学生の手によって行われた。

明治大学はインド、ベトナムそれぞれの班に分かれて発表した。



・インド班

かつてインドで緑の革命(主にコメ・小麦の収量を大きく上げた)が起こった。現在広い地域で緑の革命による副作用で苦しんでいる。中でも塩害を取り上げ、無計画に水を扱うのではなく、作物を育てる上で最小限の水を必要な時に与えることで、塩害を防ぎ、かつ水を守ることができると提案した。(文責・大塚)



・ベトナム班

メコンデルタ(ベトナム)で起きている2つの問題に焦点を当てた。1つめは多くの水田で、恒常的に塩害が起こり稲作ができない状態にあるという問題。2つめは過剰なエビ養殖によるマングローブの減少と水質の汚濁である。これら2つの問題を一度に解決する方法を提案した。

模擬国連を体験して学んだのは英語の大切さである。国籍の違う学生同士が英語という言語を通して互いにプレゼンし合う機会は大変貴重であった。もっと英語が話せるようになりたいと思わせるきっかけを私達に与えてくれた。



[8日目] 11月14日(土)



8日目は終日自由行動だったので我々学生8人は明治大学の交換留学生の紹介で親しくなったタイ人の学生3人にアユタヤを案内してもらった。

ホテルを朝の6時半に出発、約1時間半車に揺られ最初にアユタヤにあるゾウ乗り場に到着した。ほとんどの学生がゾウに乗るのは初めてだったので皆乗り心地や景色に興奮していた。次にウィハーン・プラ・モンコン・ボピットを見学した。17Mの巨大な金の仏像に圧倒された。

昼食は学生立っての希望によりカオマンガイを食べた。お茶を注文した際、苺ミルクのようなものが運ばれてきた人もいて食文化の違いを実感した。

午後はワット・プラ・マハタートを訪れた。木の根に埋まった仏像の頭部が印象的だった。周辺には多くの遺跡がありとても見ごたえのある場所だった。

最後に水上マーケットで買い物した後夕食はトムヤムクンなどタイ料理を満喫した。案内してくれた学生は私

たちに寺院の参拝の仕方を教えてくれたり写真を撮ってくれたりとても親切だった。今後もSNSなどで交流を続けていきたい。(文責・海部)

[9日目] 11月15日(日)

朝7時にシーナカリンウィロート大学を出発し、空港に向かった。出発までは各々自由に過ごし、約5時間のフライトで羽田空港には午後5時半頃着いた。

今回のプログラムを通して、農業の大変さを肌で実感することができ、また、現地の大学生とふれあう中で異なる文化を理解す大切さを学ぶことができた。タイの人びとは穏やかで、我々を温かく迎えてくれた。このプログラムから多くのことを学び、皆、胸をはって帰国することができた。(文責・村野)